

琉球大学学術リポジトリ

管内概況 敷香支廳

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38433

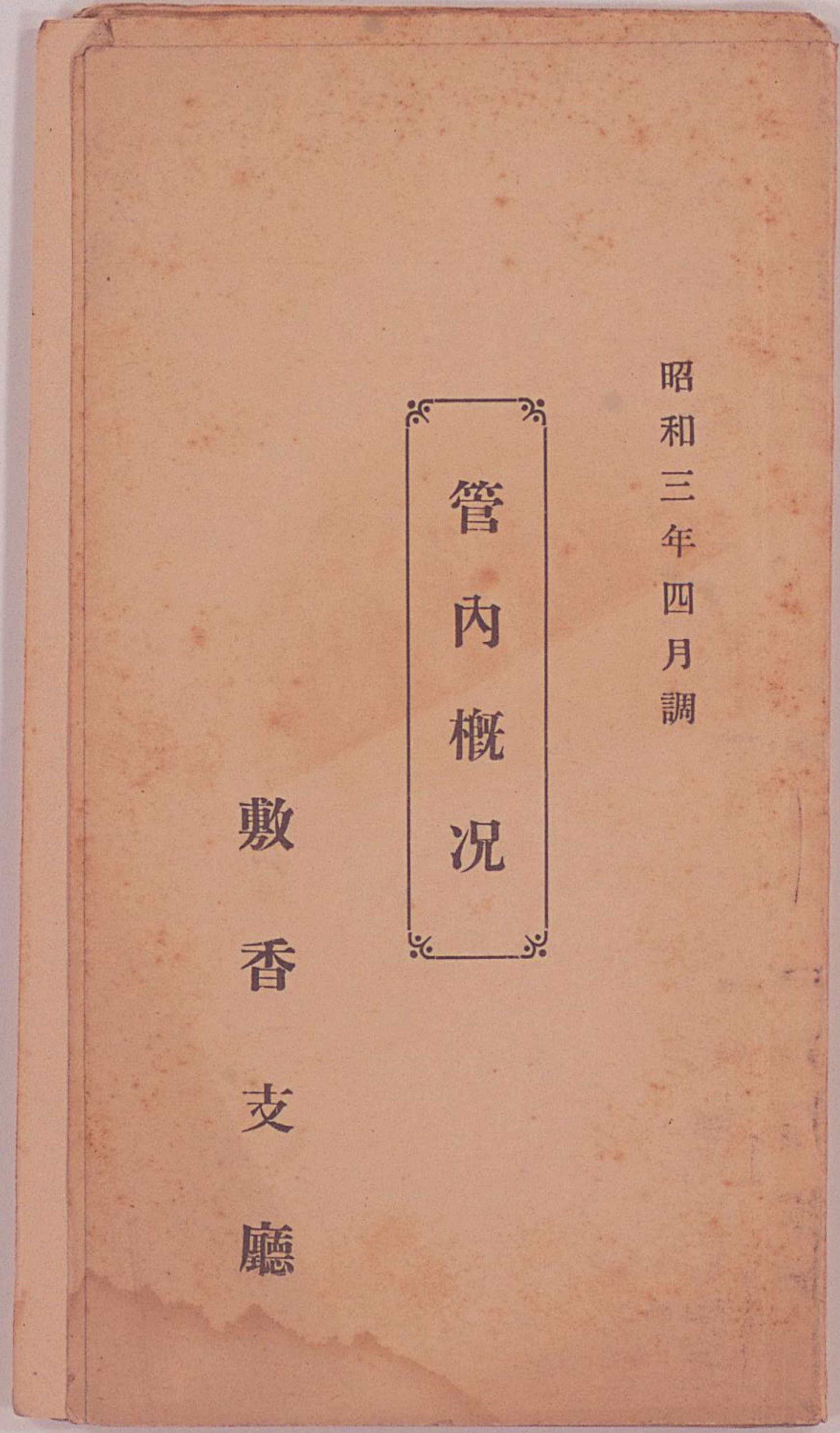
矢内原忠雄文庫

史料名	昭和三年四月調 管内概況 敷香支廳
封筒番号	423
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 18 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号：423

史料名	昭和三年四月調 管内概況 敷香支廳
資料形態	冊子／新書版
枚数	26
頁数	50
縦 (cm)	18.5
横 (cm)	10
厚さ (cm)	
書誌的事項	樺太 今泉分類記号：P



敷
香
支
廳

管
內
概
況

昭
和
三
年
四
月
調



1/10

目次

(1)

一、管區沿革	三
二、位置地勢	三
三、氣候	六
四、交通通信運輸	八
五、戶口	一〇
六、產業ノ概況	一六
七、組合	三二
八、金融	三四
一〇、財政	三五
一一、社寺	三七
一二、教育及刊行物	三九

(2)

一三、衛生、……………四一
 一四、土人狀況、……………四一
 『附 録』 通信、運輸一覽表
 町村財政表

一、管 區、沿 革、

敷香支廳ハ敷香、散江二郡ヲ管轄シ、之ヲ泊岸、内路、敷香、散江ノ四村ニ分ツ古クハオロツコ、ギリヤーク、アイヌ等土人ノミ居住セシガ、露領ニ歸シテヨリハ露人ノ來住スルモノ多ク、内路、敷香ノ地ハ部落ヲ形成シ郵便局、商店等ノ設アリ、邦人ハ既ニ幌内川附近ニ於テ鮭、鱒漁業及交易ノ業ニ從事スルモノアリシガ南樺太邦領トナルニ及ビ、海陸ノ天産豊富ナルコト天下ニ著聞シ逐年移住者數ヲ増シ、以テ今日ノ繁盛ヲ見ルニ至レリ。

二、位 置、地 勢、

邦領樺太ノ最北部ヲ占メ面積八百五方里余北ハ五十度ノ國境線ヲ以テ露領ニ接シ、西ハ西樺太山脈南北ニ連ゼシテ名好郡ト地ヲ限リ、南ハ元泊郡ト接壤シ、東ハオホツク海ニ臨ミ北知床半島長ク南ニ延ビテ多來加灣ヲ抱ク、地勢從テ概ネ三帶トナル、一ハ東部山地帯、一ハ中央低地帯、一ハ西部ノ山地帯トス。

(3)

(4)

東部山地帯ハ東北山脈國境ヨリ起リ近ク海濱ニ創立シテ余勢北知床半島ニ亘リ、海豹島ヲ終点トシテ海ニ没ス。

『海豹島』海豹島ハ北知床半島ノ南端約五里ノ海上ニ横ハル、長六町巾四十間サイ爾タル岩セウト云フヲ適當トス。

毎年夏季ニ至レバ、オットセイ集合シ、シ獸ヲ分斃ス、其數、萬ヲ以テ數フヘク、政府ハ國際條約ニヨリテ之ヲ保護ス、島上ニハ數萬ノロツベン鳥群居シ亦一奇觀ヲ呈ス。

中央低地帯ハ幌内川流域地帯ニシテ、延長二十八里幅員五里乃至八里ノ大平原ヲナス、其ノ間ニ所謂ツンドラ地帯横ハル、ツンドラ地帯ハセントアイ密生セル階段的低濕地ニシテ矮少ナル落葉松点々疎生シ、所々ニ沼澤ヲ作ル、其ノ最大ナルモノハ即チ多來加湖ナリ。

『多來加湖』本島第一ノ大湖ニシテ、多來加灣頭ニ横ハル、東西十里、南北廣キ所四里、一條ノ砂嘴ヲ以テ海ト隔ツ。

(5)

湖中、特有ノ大鮭ヲ産ス、味甚佳ナリ、湖水ノ海ニ注クモノ多來加川ト云フ、チカ魚ノ湖上スルヲ以テ名アリ、年産額約二萬圓多來加部落ノ活計ヲ維持スルニ足ル。

『幌内川』幌内川ハ源ヲ露領ニ發シ、五十度線ヲ突破シテ邦領ニ入り、ムイカ、古嶺、氣屯、初間、上敷香等支流ヲ合シテ多來加灣ニ注グ、流程露領ヲ合シテ實ニ七十余里、樺太第一ノ大河ニシテ水量豊富、鮭鱒ノ蕃殖河川トシテ將又國際河川トシテ著聞ス。

水深敷香ニ於テ七尋ニ余リ、優ニ五六百噸級ノ汽船ヲ入ル、ヲ得、上流ムイカ附近迄發動機ヲ以テ溯航スルヲ得ヘク沿岸地味肥沃、森林鬱蒼トシテ繁茂シ配スルニ本川ヲ以テス、産業上、交通上實ニ敷香ノ將來ヲ把握スルモノト云フヘク、築港計劃實現スルニ至ラハ敷香ノ發展ト相待テ本川ノ價值ハ誠ニ大ナルモノアルヤ言テ俟タサルナリ。

東部山地帯ハ標高四千余尺ノ敷香嶽ヲ主峰トスル西樺太山脈連互ノ地帯ニシテ、

四、交通、運輸、通信、

(8)

『鐵道』 落合ヲ起點トシ敷香ヲ終點トスル、樺太鐵道株式會社ノ、東海岸線ハ昨年十一月落合知取開先ヅ開通シ愈々本年當管内ヘノ延長工事ニ着手スルニ至レリ本鐵道開通ノ曉ハ管内須要ノ各地ヲ連絡シ遠ク内地方面ト直通スルニ至ルヲ以テ交通上、開發上一新紀元ヲ劃スルニ至ルヘシ。

『道路』 榮濱ヲ基點トシ國境ニ通スル軍用道路ハ本管内陸上交通ノ幹線ニシテ、奥地方面貨客運輸ノ大動脈ヲナス、此ノ道路ハ内路ニ於テ分岐シ東方五里余敷香ニ達ス、敷香以南自動車ヲ通スヘク實ニ交通上ノ要路ナリ、散江街道ハ多來加灣ニ沿ヒテ東走シ多來加、野頃ヲ經テ能登ニ達ス。

軍用道路沿線各地ノ發達ニ伴ヒ敷香市ガイヨリ、上敷香ニ通スル、道路開鑿セラレ以テ自動車ヲ通スヘク奥地方面ノ交通上多大ナル寄與ヲナセリ。
『海運』 海岸線極メテ平凡ニシテ、良錨地ト稱スヘキモノナキモ、新間、泊岸、

内路、敷香、多來加、野頃、能登等、常ニ大小船舶ノ航行アリ、殊ニ四月ヨリ十一月ニ至ル間ハ定期船ノ外發動機船ノ運航頻繁ニシテ、物貨ノ運輸、旅客ノ出入頗ル便利ナリ。

命令航路ハ次ノ如シ

函館	能登線	二隻	(北日本汽船)
小樽	敷香線	二隻	(北日本汽船)
小樽	敷香線	二隻	(近海郵船)
伏木	敷香線	一隻	(北海郵船)
大泊	敷香線	二隻	(川崎汽船)
榮濱	能登線(發動機)	一隻	(興業會社)

(9)

近時幌内川上流地方ノ發展ニ伴ヒ、本河ヲ利用シテ交通ノ便ヲ策シプロベラトテ動力トスル特殊ノ船ヲ以テ上下シ僅ニ八時間余ニシテ遠ク、氣嚙川口ニ達スルコトヲ得上流地方トノ交通ニ新生面ヲ開ケリ。

(10)

『通信』 戸口ノ増加、地方ノ發展ニ伴ヒ通信機關ノ利用亦旺ニシテ一面金融機關ナキ管内ニ於テハ唯一ノ金融機關トシテ觀ラレ、現在設置ノ四局ニテハ、既ニ不足ヲ告ゲ一般通信ノ利便ヲ満足セシムルニ足ラサル状態ニ達シタリ。

『運輸』 地方ノ開發、事業ノ勃興ト共ニ貨客ノ出入亦増加スルハ自然ノ勢ニシテ近海頓ニ運輸ノ繁盛ヲ來シ、泊岸、内路、敷香ヲ主ナル吞吐港トシ、水産物、木材ヲ移出シ、米穀、雜貨、被服料、其他日用必需品ヲ移入ス昭和二年中ニ於ケル其ノ大勢ヲ表示スレハ別表ノ如シ。(通信及運輸ノ一覽表ハ附録一頁ニアリ)

五、戸口

五、『戸口』 管下拓殖ノ進展著シキハ極メテ近年ニ屬シ、之ヲ人口増加ノ状態ニ對比スルトキハ次表ノ如ク、即チ大正十三年以來年次激増ヲ示シ殊ニ昨昭和二年、軍道沿線、新開、上敷香、氣頓ノ官行研伐事業保惠、九州大學演習林ノ研伐事業開始セラル、ヤ、從來人跡殆ント稀ナル地、一躍市ガイヲ形成シ上敷香ノ如キ

(11)

、今ヤ連擔二百戸ヲ算ス、昭和二年末管下總戸數二千一百七戸、人口二万三百三十九人ヲ數フルニ至レリ。

管 内 戸 口 累 年 比 較

年 次	戸 數	人		口 計	一 方 里 二 付	
		男	女		人	戸 口
大正元年	六五四	一、五五〇	一、一三五	二、六八五	二、九九	四、〇九
大正五年	四六三	一、〇五九	八三四	一、八九三	二、一一	四、〇九
大正十年	五四〇	一、八九八	一、一〇三	三、〇〇〇	三、三四	五、五五
大正十二年	六〇四	二、一一一	一、三五四	三、三六五	四、一八	五、五七
大正十三年	八六五	二、七三三	一、七五四	四、四七七	五、五六	五、一七

(12)

種別	戸數		村別面積現住戸口	昭和二年	昭和元年	大正十四年
	男	女				
泊岸村	二、一〇六	一、二七一	二、三三三	一、三六六	一、三六六	一、三六六
内路村	二、四四三	一、五四〇	八、三四七	三、七四八	四、八二七	三、七四八
敷香村	三、五五二	一、五七四	四、五九四	二、四二六	二、八二七	二、四二六
計	八、一〇一	四、三八五	一三、九四一	六、一七四	七、六五四	六、一七四
散江郡	二、四六八	二、〇九四	一六、〇七	七、六	九、四九	七、六
合計	一〇、五七九	六、四七九	二九、九八二	一三、八四〇	一七、一四三	一三、八四〇

村別面積現住戸口 (昭和二年十二月末日)

(13)

職業別	現住戸口	面積		職業別現住戸口	從業者	職業ナキ從屬者及力事使用人	計
		一里三付	一里三付				
農業	九三六	六六	五三	六三	一〇	一九	一七五
水産業	二二九	六〇	六三	四四	五四	八四	五五
礦業	六〇七	五	六	五	五	五	五
計	一、二四五〇	一、二四五〇	一、二四五〇	一、二四五〇	一、二四五〇	一、二四五〇	一、二四五〇

職業別現住戸口 (昭和二年十二月末日)

(15)

種別	泊岸村	内路村	敷香村	散江村	計
人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數
内地人	六三〇	三、元七二一	三、五七五	六、四六四	八、一三三
朝鮮人	二三一一	二、八三五	一、四七七	—	六、五七三
支那人	三	四	—	—	七
露國人	—	—	—	—	—
アイヌ	二九	—	二	—	四
オロッコ	—	—	二	—	二
ギリヤーク	—	—	—	—	—
トングース	—	—	—	—	—
計	六八一	三、七七五	三、九八四	九、六四五	二、三三三
	—	—	—	—	九四一

(14)

人種別戸口表 (昭和二年十二月末日)

種別	泊岸村	内路村	敷香村	散江村	計
人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數
工業	—	—	—	—	—
商業	—	—	—	—	—
交通業	—	—	—	—	—
公務及自由業	—	—	—	—	—
其他ノ有業者	—	—	—	—	—
無職業	—	—	—	—	—
計	二、三八三	八、一三二	—	四、八一〇	一、二、九四一
	—	—	—	—	—

(16)

出生及死亡 (昭和二年中)

村別	出生		死亡		計	此 比	增 減
	男	女	男	女			
泊岸村	三六	三二	六八	三八	二七	六五	三
内路村	六七	四〇	一〇七	六四	五二	一一六	九
敷香村	五八	六〇	一一八	六七	三七	一〇四	一四
散江村	九	五	二四	六	一	七	七
計	一七〇	一三七	三〇七	一七五	一一七	二九二	一五

『概設』管下産業ハ、水産、林業ノ外從來見ルヘキモノナカリシモ、軌近管下ノ實

六、産業ノ概況

情廣ク、天下ニ紹介セララル、ヤ、内外ノ視聽一時ニ集リ、此ノ秋ニ於テ東海岸鐵道ノ全通一兩年ニ迫リ、軌道ノ敷設、道路ノ改修、航路ノ増加、汽船ノ増配等海陸交通機關ノ完備ニ伴ヒ、鑛業ノ開發、林産工業ノ興隆、農牧、水産業ノ堅實ナル發達期シテ待ツヘク、今ヤ各種企業ニ産業ニ實ニ活潑ナル狀勢ニ進ミツ、アリ。

『商、工業』 商業ハ末ダ見ルヘキモノナク、一般ニ地方ノ需給ヲ仲介スルノ狀態ナリ。

工業ハ製材業近時著ク旺盛トナリ、地方ノ需要ヲ充シ尙管外或ハ北海道方面ヘノ需要ニ應ゼントスルニ至レリ。

其他經木製造ヲ始メ諸種ノ企業ノ目論見アルモ未タ實現ノ運ビニ至ラズ。

鐵道開通シ、交通、運輸、通信、金融機關等諸種ノ條件充足スルニ至ラバ、商工業共ニ格段ノ發展ヲ來スヘク豫想セララル

物價表

(昭和三年四月)

(17)

(19)

昆布	鹽鱈	鹽鮭	數ノ子	身欲鯨	鶏肉	豚肉	牛肉	燒酎
"	"	"	"	一メ	"	"	百目	一木
北海道産	"	"	"	"	"	"	島産	内地産
二、五〇	一、二〇	二、〇〇	五、〇〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	五〇
綿ネル	晒木綿	晒木綿	紡績線絲	和線絲	カツヲ節	鶏卵	澤庵漬	梅干
一斗	一釜	一反	百目	一メ	"	"	百目	百目
					伊豆産	地産	"	内地産
一〇、〇〇	七、〇〇	一、五〇	一、五〇	六、八〇	二、五〇	一〇	一五	三五

(18)

小麥粉	小豆	大豆	燕麥	精麥	白米			種類
百目	"	"	"	"	下	中	上	單位
"	"	"	"	北海道産	北海道産	"	"	越中一等
					北海道三等	二等		立物名稱
一五	四〇	三五	二〇	三〇	四八	五四	六三	價
清酒	茶	"	和赤砂糖	和白砂糖	酢	醬油	味噌	種類
一斗	一斗	"	"	一斤	"	一斗	一メ	單位
地酒	金露	宇治普通	"	臺灣産	"	内地産	佐渡産	立物名稱
一、五〇	二、五〇	二、〇〇	三二	四〇	六〇	一、四〇〇	一、四〇〇	價

(20)

白絞油	一升	内地産	一、二〇〇	石油	一升	四八
石炭	一噸	北海道産	三〇、〇〇〇	六分板	一坪	二、四八
輕油	一箱		一七、〇〇〇	木炭	一俵	二、八〇
薪	一敷	落葉松	六、〇〇〇	美濃紙	一帖	五〇
半紙	一帖		一〇、〇〇〇	洋紙	一封	八〇
ト下角材	一石		八、六〇〇	トト丸太	一石	三、五〇
四分板	一坪		一、四〇〇			

勞 銀 表

(21)

職 業 種 類	日 給 月 給 別	普 通 勞 銀	職 業 種 類	日 給 月 給 別	普 通 勞 銀
大 工	(賄無) 日給	五〇〇〇	桶 職		
活 字 版	"	五〇〇〇	左 官	"	五〇〇〇
下 駄 職			船 大 工	"	五〇〇〇
石 工			靴 職	マカナヒ無日給	
菓子製造職	賄付月	五〇〇〇	家 根 職	賄無 日給	五五〇〇
馬 具 職			理 髮 職	マカナヒ附月	五〇〇〇
煉 瓦 職	マカナヒ無日給		製 造 職		

下 女	塗 師 職	漁 夫	經 師 職	鍛 冶 職	料 理 職	疊 職	和 服 裁 縫 職	流 送 人 夫
マカナヒ付月給		マカナヒ附 月給	マカナヒ日無給	マカナヒ無日給	マカナヒ月	マカナヒ無日給	マカナヒ無日給	日給
五〇〇〇		五〇〇〇		七〇〇〇	六〇〇〇	四五〇〇		五〇〇〇
日傭人夫	下 男	指 物 職	鉄 葉 職	解 夫	建 具 職	洋 服 裁 縫 職	柚 夫	木 挽
	マカナヒ附 月給	マカナヒ無日給	マカナヒ付 月給	マカナヒ附 日給	マカナヒ無日給	マカナヒ附 月給	標準日給	マカナヒ無日給
三〇〇〇	三〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	四五〇〇

會社

株式會社山中商會敷香支店	樺太木材株式會社	敷香起業會社	敷香興業株式會社	敷香電氣株式會社	敷香金融株式會社	內路信託合資會社
敷香村	泊岸村	敷香村	敷香村	敷香村	敷香村	內路村
製材及土木建築請負	造材製材加工附加事業	木材製造販賣請負	海運業	電氣業	無盡業、金錢貸付業	倉庫、金融、信託、仲介、
營業科						
目						

『農業』管内ノ農業ハ近ク大正十一年始メテ區劃測設セラレ、以テ移住農民ヲ收容シタルニ始リ、未ダ草創ノ時代ニアリト雖モ、南ハ新聞川、古丹岸川、内路川、北ハ敷香、大木、初間、保惠、氣頓各河川及東野頃川流域ニ地味肥沃ナル農耕地多ク、幌内川流域ノ農耕地適地ヲ合シ優ニ數十町歩ヲ算スベシ。
氣候風土、一般農作物ノ生育ニ適シ、麥類、豆類ヲ始メトシ、蔬菜、馬鈴薯等極メテ良好ナル收穫ヲ見、南瓜、胡瓜等ヨク結實ス。
殊ニビートノ栽培ハ地質、氣候、百積等各種ノ條件具備スルヲ以テ將來ヲ期待セラル、事業トス。
而シテ昭和二年度迄ニ區劃測設セラレタル殖民地ハ、二千百九十五區劃約九千百町歩余ニシテ僅ニ開發ノ端諸ニ過キス將來ニ俟ツベキモノ實ニ大ナリトス、農業移民ハ逐次増加シ昭和二年ニ於テ九百三十六戸ヲ算シ耕作反別生産額又年次増加ス。

殖民地區劃地積表
(昭和二年末現在)

村別	農業		耕地反別町	作付反別	農産價格
	專業	兼業			
敷香村	二四二	一三〇	二六七、四	二五〇、〇町	四四、四一六町
内路村	一九〇	二三	六二〇、四	五二五、〇	一一六、四一九
泊岸村	三一七	三四	二九九、八	二九九、〇	九五、六五六
散江村				四、〇	八四〇
計	七四九	一八七	一一八七、六町	一〇七八、〇	二五七、三三一町

敷香村 五、一六四〇、九一坪
内路村 一〇、八四二、四三九坪
泊岸村 四五八割
散江村 八八七

(26)

種別	計	村	農作物收穫高表	昭和二年度	價
大豆	五四四	一、八八四	二石	七、〇八四、五九三	
小豆	二六八	三反	二石	二、九九六、七六三	
燕麥	二二	二反	二石		
粟	二五〇	一三	二石		
稗	一〇	一〇	二石		
黍	二八	二	二石		
蜀黍	三	三	二石		
玉蜀黍	二	二	二石		
計	一、八八四	一、八八四	二石		

(27)

種別	計	村	農作物收穫高表	昭和二年度	價
大豆	一六〇	三	一四四	二、七三六	
小豆	九四	三	七〇	一、三三〇	
燕麥	九〇	三	一四〇	一、四四〇	
粟	三〇	三	二二八	二、二八〇	
稗	二二六	三	四三二	八、六四八	
蜀黍	二二六	三	二五五	五、五〇八	
甘藷	一六八	三	二五二	七、五六〇	
漬菜	二七〇	三	三九一	六、二二二	
蘿蔔	六一	三	五六四	五、一二四	
青葱	三九四	三	一五七	三、一五二	
計	一、八八四	一、八八四	一、四四五〇	三、六六二	

胡蘿蔔	六九	一五一八〇	四五五四
牛蒡	八七	一三〇五〇	八四八二
胡瓜	三五	一四〇〇〇	一一二〇
南瓜	八	六二	三七
青刈燕麥	一四九四	一四九七〇〇	二九九四〇
其他	二〇〇	二六〇〇〇	五二〇〇
計	一〇五二六	二五七三三一	

『水産業』世界三大漁場ノ一タル、オコツク海ヲ環海トセル、當管内ハ、鯨ヲ始メトシ鯨鮭其他ノ魚族豊富ニシテ、殊ニ鯨、鮭ノ收獲ハ島内最上位ヲ占メ、定置漁場百十、専用漁場四、雜漁部落四、其定住漁業者二百三十戸ニ達シ誠ニ管下産業ノ主タルモノニシテ、近時漸ク冲合漁業ニ着目スルモノアリ、最モ活發ナル状態ニアリ。

其主要産物漁獲高ハ左表ノ如シ

品目	昭和二年		大正十五年		大正十四年	
	数量	價格	数量	價格	数量	價格
鯨	三、九四九石	四二、一五三圓	四七、七二石	九三五、四六〇圓	三三、一〇〇石	六七九、〇〇〇圓
鹽鮭	一七、一九六	三、五、六六	四八、五三四	一〇〇六、七九三	八八、九〇三石	三、〇〇〇圓
鹽鮭	二、九〇八	一〇九、九〇〇	四、五三三	一八八、三四五	二、一〇〇石	三、〇〇〇圓
雜粘	三三三	四、九一七	—	—	三三〇	六、九四〇
チカ素乾	五二六	一八、九七七	一四〇〇俵	三三、〇四六	三、八〇〇	四六、六〇〇
チカ煮乾	三八	三、〇〇〇	—	—	六八〇	一、三六〇
水下魚	三三六	三、〇〇〇	一、一〇八	一〇、一六〇	二六一	五、九〇〇
其他	四三三	一八、八三〇	四三	一三、一〇〇	五三	八三〇
計	一〇六、四三三	二一七、八三四	—	—	—	—

鯨鮭ハ島内第一ノ漁獲地ナルヲ以テ其蕃殖保護ハ刻下ノ急務ナルガ、幌内川流域各所ニ孵化場設置ノ計劃アリ、目下事業ヲ開始中ノモノハ保惠川ノ水産試驗場所

(30)

屬ノモノ及敷香川ニ於ケル、鱒鮭養殖保護會所屬ノモノニシテ昭和元年採卵數約二百萬粒ト稱セラル。

『林業』管内總面積百十四萬五千町步、其蓄積貳億參千參百萬石ニシテ、新開川、幌内川、野頃川ノ各流域皆蔚蒼タル、トバ、エゾノ密林ナリ、昭和貳年氣頓、古頓、上敷香、新開ニ於テ官行斫伐事業開始セラレ、保惠ニ於ケル九州大學演習林亦伐採ヲ開始シ爲ニ、森林伐採量頓ニ増加シ貳年度ノ出材量九十貳萬石ヲ超エ、更ニ本年度ニ於テハ、東海岸瀨、遠内ノ官行事業開始セラルルアリ、林業ノ盛況當ニ極点ニ達セントス。

主要林産物生産高

(昭和元年度)

種類	單位	數	量	價	格
用材	石		五四三、九三〇		三三五、八一〇、一〇

(31)

『牧畜業』管内氣候風土最モ野草ノ生育ニ適シ至ル處、牧畜適地アリ、燕麥、牧草亦ヨク育ツヲ以テ、牧場經營ヲ計劃スルモノ漸ク現ハル、ニ至リ、民有家畜數ハ牛貳百拾五頭、馬四百九十頭ナレトモ近來、畜種ノ改良ニ心ヲ向クルモノアリ、現在未ダ創業ノ際ニ屬シ、見ルベキモノナシト雖モ將來頗ル有望ナル事業トス。其他、樺太山脈一帯ニ豐富良好ナル石炭ヲ埋藏スレドモ、未ダ開放セラル、ニ至ラズ、内路川以南ニ於テ、僅カニ鑛區ノ設定ヲ見レドモ採掘セラレズ、東部山脈一帯ハ砂金ノ鑛區トシテ知ラル。

薪炭材	敷		八、一七七		四、八〇二、五四
小丸太	本		二、一一七		二五一、七〇
木炭	貫		四八、六〇〇		一七、〇一〇、〇〇
計					三四二、五六四、二二

(32)

幌内川流域ノツンドラハ廣茫實ニ貳十五万町歩ノ面積ヲ占メ曲長商會ニ於テ之レ
カ利用研究ノ爲、敷香ニ工場ヲ設置シタルモ操業セシテ止ミタルハ遺憾トス
本研究完成セラレ利用ノ途開クルニ至ラバ管内ノ一大産業タルヲ得ベシ。

七、組合

『産業組合』産業組合數一ニシテ全島三十七組合ニ對シ其率多カラサレドモ、現存
敷香信用組合ハ、成績頗ル良好ナリ、將來之カ普及ニ努メ開發ニ資スル所アラシ
メントス。

産業組合

名 稱	所在地	創 立	區 域
敷香信用組合	敷香村	大正十四年四月十五日	敷香市街地

漁業組合、泊岸、多來加、野頃、内濱ノ四組合アリ、近時雜漁業者ノ覺醒ト、指

導獎勵ノ結果、共同購販事業、遭難救恤事業、資金貸付等、圓滑ニ行ハレ業績次
第二現ハル、ニ至レリ、就中泊岸漁業組合ハ、其成績拔群ニシテ他ノ範タルモノ
トシテ推奨セラル。

漁業組合

(33)

組合名	所在地	設 立 組 合	積 立 財	漁業權	其 他	負 債
泊岸漁業組合	泊岸村	大正五年四月三	一、七二七	專用	七、六〇〇	
多來加漁業組合	敷香村大字西	大正五年五月二〇	一〇、七三二		七、六〇〇	
西野頃漁業組合	散江村大字矢	大正十二年九月一五	一、五七〇		一、四〇〇	
散江郡内濱漁業組合	散江村大字散	大正五年七月七三	七、六五八		七、九三五	

『幌内川鱈鮭繁殖保護會』敷香郡内建網業者ノ有志ヲ以テ組織セラル、幌内川鱈

(34)

鮭繁殖ヲ保護シ、尙積極的ニ増殖ヲ策スル所多ク保惠川ノ孵化場ハ本會カ建設寄附セシモノニシテ敷香川ノ孵化場ハ本會ノ直接經營スル所ナリ、昭和貳年度採卵數百萬粒ト稱ス。

八、金

融

金融機關、管内金融機關トシテハ、敷香ニ敷香金融會社、内路ニ内路信託會社アルノミニシテ、事業勃興ノ爲、比較的發達セル金融界ノ必要ヲ充スコト能ハス、僅ニ郵便局ヲ利用シテ漸ク彌縫スルノ状態ニアリ、開發上誠ニ遺憾トス。

郵便貯金爲替

(昭和二年度)

局名	貯金		振替		爲替	
	受入	拂戻	受入	拂戻	受入	拂戻
泊岸局	一六、六四六	一七、六四四	一四、五五二	二八、三八九	五四、六四四	五八、二二二
内路局	二五、四八一	二四、三八二	三七四、一六八	三五、二七七	一一三、〇四五	一一六、〇八二

(35)

『支廳財政』

一〇、財

産

歳入経部

敷香局	二九一、一六六	二九一、四七七	一九、四六三	八八〇、六九三	一〇〇八、〇四一	六五五、三二二
散江局	二四、五六三	二五、三五一	一三、一〇五	七、三三六	五九、〇一〇	三九、二三四
計	五九一、八七六	七〇〇、八五四	六七一、五七二	一、一三、五九四	二八二四、七九〇	二、四三五、九三〇

科目	大正十五年度決算額	昭和二年度決算額	對照増減額
市街宅地税	六五七〇〇	八八〇七〇〇	一四九六〇
第二種所得税	二二〇〇〇	一、一四二四五〇	一、一四〇三五〇

(36)

第二種所得稅	
營業稅	一一、七四〇五四〇
營業稅	九、四一一一九〇
營業稅	二、七〇六七二〇
漁業稅	二八、五二〇〇〇〇
森林收入	二九八、五一八九五〇
官有物貸下料	一八、三二四四九〇
懲罰及沒收金	九八六〇〇〇
辨償及違約金	二、五六三四八〇
手數料	七六〇〇
雜入	八二三〇〇
計	三、七二二、九一九一〇
臨時部	五、六六、一二二一六〇
對照增減額	一、〇六五、六七〇
計	一、九三、二〇五〇五〇

(37)

科 目	大正十五年度決算額	昭和貳年度決算額	對照增減額
地所拂下代	五、七四三、五九〇	五、五三三、九九〇	△二〇九、六〇〇
物品拂下代	一、五〇〇	—	△一、五〇〇
計	五、七四五、〇九〇	五、五三三、九九〇	△二、二一一、一〇〇
總計	三、七七八、六六四、二〇〇	五、七七一、六三六、一五〇	一九三、九九二、九五〇

町村財政表ハ附録第二頁ヲ御參照下サイ

一一、社 寺

神社名	祭	神	所在地	創立許可
敷香神社	天照皇大神	敷香	大正十年八月十日	可

『寺院』 寺院ノ創立未タナシ
布教所

泊岸神社	大國魂命、大己貴命、少名彥命	泊岸	大正十年三月十五日
内路神社	天照皇大神	内路	大正十五年五月七日
散江神社	大國魂命、大己貴命、少名彥命	散江	昭和二年五月十四日

名	種	宗	派	所在地	布教師	信徒數	設立許可
泊岸設教所	眞宗本願寺派	泊岸	山本蓮生	一、四二〇戸	大正十年三月卅日		
敷香布教所	曹洞宗	敷香	本間道田	一、三〇〇戸	大正十年三月十五日		
日蓮宗敷香布教所	日蓮宗	全	大島智信	七六八戸	昭和二年三月十五日		
				一、八〇〇戸	昭和二年三月十五日		

曹洞宗内路布教所 曹洞宗 内路 西脇宗秀 一、二〇〇戸 昭和二年八月廿四日

一一、教育及刊行物

『小學校教育』 教育制度ノ改善ト教員素質ノ向上ハ單ニ兒童ノ教養ニ止マラス地方ノ開發及社會教化ニ良好ナル影響ヲ及ボシ其ノ成績顯著ナルモノアリ、就學出席狀況モ村當局ノ熱誠ト住民ノ自覺トニ依リ益々良好ナル成績ヲ收メ殆ント不就學者ヲ見ザルノ現況ニシテ出席歩合モ亦極メテ良好ナリ、昭和三年四月現在ノ狀況左ノ如シ。

郡町村	校數		學級教員數		兒童數	一ケ年當一學級當兒童一人	
	尋常	尋常高等	數	數		經常費	經常費
敷泊岸村	一	一	二五	五	三〇六	〇八三一	二二七
香内路村	一	一	一一	三	五一一	一〇九四	八七三
							二二〇

(40)

郡敷香村	二	一	三	九一〇	三二七	九四四一、〇四四	三〇
散江村	一	一	一	二二	六三二、二二二	六〇七	一九
計	五	三	八二八三〇一、一九八二七、〇五	九七二	二三		

備考 外ニ泊岸村ニ土人教育所一ヶ所アリ

『社會教育』 社會教育ニ就テハ各村ニ青年團、教育會、兒童保護者會、婦人會等ノ施設アリテ相當効果ヲ擧ケツ、アリ就中青年團ハ管内ヲ通シ四團體アリ其ノ人員百五十二名ニシテ夜學會、巡回文庫、体育施設等其ノ成績見ルヘキモノアリ。青年訓練所ハ昭和三年壹月開所セルモノ壹個所アリ生徒數十六名ニシテ是ガ成績ノ向上ニ努力シツ、アリ漸次其ノ數モ増加スルノ傾向ナリ。

尙管内ヲ統一セル北東教育會アリテ各村ニ支部ヲ置キ權太教育會ト相連絡ス、其ノ事業ノ主ナルモノハ巡回文庫ヲ實施シ社會教育上相當ノ成績ヲ收メツ、アリ。

『刊行物』 新聞紙ハ敷香村ニ敷香時報社、内路村ニ北民新聞社ノ二社アリ。

一三、衛

生

權太ノ風土ハ健康ニ適シ從テ地方病トシテ特ニ認ムルモノナク傳染病ノ如キ腸窒扶斯、チフテリア等ノ發生ヲ見ルニ過キス衛生狀態良好ナリ。

開業醫其ノ他ノ狀況左ノ如シ

(41)

村名	醫		齒科		產婆	鍼灸術
	免許醫	假免許醫	免許醫	假免許醫		
泊岸	三	一	一	一	一	
内路	一	二	一	一	一	
敷香	二	四	一	一	三	
散江	一	一	一	一	一	

土人狀況

計
六
七
二
一
五

管内土人ハアイヌ、オロツコ、ギリヤークヲ主ナルモノトシ、ツングース、キーン等小數居住ス。
 之等ハ何レモ開明ノ度低ク、一般ニ從順ナレドモ、到底内地人ト伍シテ競争場裡ニ立ツコト能ハス、諸種ノ保護方法ヲ立テ、撫育向上ノ方ヲ策シツ、アリ。
 アイヌ、ハ泊岸村、新聞及ビ敷香村多來加ニ集合部落ヲ作り生活セシム。
 近時内地人ト接觸ノ機會多キト、指導獎勵ノ結果大ニ勤勞ノ風ヲ馴致シ稍向上ノ傾向ヲ認ムルヲ得ルハ喜ビニ堪ヘザルモ、漸次人口ノ減少ヲ來ス風アルハ遺憾ナリ。
 『其他ノ土人』主トシテ幌内川流域、多來加湖沿岸、野頃川口附近ニ散在ス。

生活ノ態様未ダ全ク原始ノ風ヲ脱セズ、河川ノ沿岸、ツンドラ地帯ヲ轉々トシテ、漁獵ニ好適ノケ所ニ居ヲ構ヘ、或ハ馴鹿ヲ遊牧シテ、水草ヲ追フテ居ヲ轉ズ。
 性從順ナレドモ勤勞ノ風ナク、貯蓄ノ念ナク、幼時ヨリ烟草ヲ用ヒ、多ク酒ヲ嗜ム、即チ之ノ風ヲ改善センガ爲メ、特ニ漁業ヲ許可シ之ヲ指導シ、集合部落ヲ作りテ定住ヲ勸奨シ農耕播種ノ方法ヲ授ケテ、勤勞貯蓄ノ美風ヲ馴致シ以テ生活ノ安定ヲ保タシメ漸次兒童ヲ教育シテ開明ノ恩澤ニ浴セシメントシテ大ニ保護方法ヲ講ジタルニ効果漸ク現ハレ今ヤ定住ノ風ヲ喜フモノアルヲ見ルニ至レリ。

町村名	戸別
泊岸村	七、五〇
内路村	一七、五五
敷香村	一四、〇〇
散江村	二、一〇
計	四一、二五

備考 町村税一

出 (昭和參年度)

書 状 小 包

町村名	常						計	臨時費		計	一戸當 經常費
	役場費	教育費	警備費	衛生費	土木費	勸業費		其ノ他	計		
泊岸村	一一、四〇九	六、〇八三	三、〇二五	二、三三六	一、三五〇	一	五、四七三	三、〇	五、七六三	六、四四五	一九〇
内路村	一五、一八八	一〇、四七二	九、九四三	六、五三四	一、〇〇二	二五〇	五、八四九	四、四五六	二、八七四	三、三六	四七
敷香村	一四、五四八	九、四四〇	四、一〇二	七、四五三	六、七〇	一	九、二二四	四、三、七二八	三、五、七〇	三、八四	六一
散江村	二、四四三	一、二二一	一一一	一一四	五〇	一	九三六	四、九六八	九〇七	五、八七六	六一
計	四四、五八八	二七、二〇五	一七、七〇五	二七、四八八	九、二七〇	二五〇	二一、四三三	二、二五、七三、七三、九四九	一、七、	六、七、	五、五

挿入文書

歲入

(昭和參年度)

町村名	戶別割	村		計	町村稅一戶當負擔額	戶別割一戶當負擔額
		其ノ他	稅			
泊岸村	七、五〇〇	二〇、七四六	二八、二四六	二二、九四四	五二、一九〇	四三
內路村	一七、五五〇	一九、一六九	三六、七一九	二二、六〇七	四九、三二六	四九
敷香村	一四、〇〇〇	四三、六七〇	五七、六七〇	二二、六一四	七〇、二八四	七四
散江村	二、一〇〇	二、三二七	四、四二七	一、四四九	五、八七六	五五
計	四一、一五〇	八五、九二二	一二七、〇六三	五〇、六一四	一七七、六七六	五六

備考 町村稅一戶當負擔額ハ現任戶數(土人ヲ除ク)戶別割一戶當負擔額ハ納稅戶數ニ依リ算出ス。
 (昭和參年度)

歲出

町村名	役場費	經		計	臨時費	計	一戶當經常費
		教育費	警備費				
泊岸村	二、四〇九	六、〇八三	〇、二五二	二、三六一	三五〇	五、四七三	三〇、五七六
內路村	一五、一八八	一〇、四七一	九、九四三	六、五三四	一〇〇、二五〇	五、八四九	四六、四五四
敷香村	一四、五四八	九、四四〇	四、一〇二	二、七四五	三、六七〇	九、二二四	四三、七二八
散江村	二、四四三	一、二一一	一一一	一一四	五〇	九三六	四、九六八
計	四四、五八八	二七、二〇五	一七、七八〇	五、七四八	九、一七〇	二二、四八二	一一五、七七五

附錄一

通信一覽表

局名	所在地	發信	着信	加入者數	取扱數	引書	受配	達	引受	配包
敷香局	敷香村	三九、八七七	二三、六〇八	七六	六八三、四六三	六八三、四六三	八二一、二二〇	四、八四八	二一、一五二	
泊岸局	泊岸村	一九、〇三二	一九、三四七		一九八、六二四	二四五、四五七	一、五八三	三、一二二		
內路局	內路村	四〇、九六二	三六、一三六		三三一、二〇六	五〇九、二八一	一、五二五	一二、一〇九		
散江局	散江村	三、九五三	三、八四一		二三、七二〇	三六、二五七	二七九	一五七七		

運輸一覽表

港別	出		入		移		入		移		出	
	船數	噸數	船數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
泊岸	一四二	七六、一三六	五一八	一七五、〇七二	一五、八二二	三四九、五八九						
內路	一七二	九五、五三九	二、〇一四	四九二、四六九	二二、六一一	一六四、一八〇						
敷香	一五六	八〇、〇三二	一、四六三	六三一、八九一	一九、〇四二	二九四、三二六						
能登	四四	一八、六八八	二七四	八四、〇一九	二二二	三七、二九〇						
計	五一四	二六九、三九五	四、二六九	一、三八三、四五	五七、六七七	八四五、三八五						

插入文書

昭和參年五月十五日印刷
昭和參年五月三十日發行

【非賣品】

敷 香 支 廳

榑太敷香郡敷香村大字敷香

宮通町南三丁目三番地

重 直

印刷人

尾

崎

重

直

印刷所

敷

香

印

刷

所

榑太敷香郡敷香村大字敷香

宮通町南三丁目三番地

重

直

